



代表取締役会長

浦聖光人

代表取締役社長

村井利彰

広く好感と信頼を寄せられる企業をめざして

経営の重要課題としてCSR活動を推進

ニチレイにとっての「CSR元年」は、CSRプロジェクトを発足した2004年にさかのぼります。このプロジェクトのもと、2005年にはCSRの基本的な考え方を「ニチレイグループ 6つの責任」(①新たな顧客価値の創造 ②働きがいの向上 ③コンプライアンスの徹底 ④コーポレートガバナンスの確立 ⑤環境への配慮 ⑥ニチレイらしい社会貢献の推進)として定義し、2006年には持株会社にCSR本部を、各事業会社にはCSR推進事務局を新設し、グループ一体となってCSR活動を推進してきました。

これらの活動をより充実させていくために、2007年度を初年度とする「中期経営計画」においては、改めて「6つの責任」を重要な経営課題として位置づけ、ステークホルダーの期待に応え続けていく姿勢を明確にしています。

中期経営計画(2007年度～2009年度)における施策

- (1) 事業成長を促進する顧客価値創造への積極的な取り組み
- (2) 国内市場での強固な基盤を活かしたグローバル展開
- (3) 企業価値向上に資する事業提携やM&Aへの取り組み
- (4) ニチレイグループ品質保証体制の強化
- (5) ステークホルダーの信頼するグループガバナンスシステムの確立
- (6) CSR視点に基づく社会との協調
- (7) 働きがいのある組織風土の推進

“食”に関わる企業としての使命

2007年度は、食品業界を取りまく環境に大きな変化が生じた1年間だったといえます。「食の安全・安心」を揺さぶる事件が続くなか、冷凍食品全般に対して消費者の皆様方が不安を抱いたことは否めません。特に中国製冷凍餃子農薬混入事件がもたらした衝撃は見過ごすことはできません。事件の当事者ではなくても、生活者の“食”を担う企業集団として当社グループが安全管理に万全を期すことは当然の責務です。

ニチレイグループでは商品およびサービスの開発から顧客への提供にいたるすべてのプロセスにおいて、品質管理体制を強化することを常に心掛けてきました。中国産品に関しても、早くから農薬管理、製造委託先・原材料調達先の管理の徹底、検査要員の現地派遣に組み込み、2006年には(株)日清製粉グループ本社と合併で、安全性の分析評価を担う現地法人を中国に設立し、「食の安全・安心」の確保に努めています。加えて今期は、中国と台湾の9社で構成する「日冷蔬菜会」を設立し、中国産冷凍野菜について栽培や品質管理の基準統一を図るなど、継続的に安全管理体制の強化を図っています。各事業会社においても「食の安全・安心」に対するアプローチを意欲的に行っています。たとえば、ニチレイフーズでは商品の原材料・産地情報を商品パッケージに公開し、消費者が安心して食品を手にするよう努めています。また、ニチレイフレッシュにおいては岩手県で「純国産鶏種 純和鶏」を育成する「(株)ニチレイフレッシュファーム」を2007年5月に設立し、海外に種鶏を依存しているわが国の現状に一石を投じ、「食の安全・安心」をめざした取り組みを始めています。

2008年7月には洞爺湖サミットの開催を控え、地球温暖化の次期枠組みが注目され、環境問題への関心が世界的に高まっています。ニチレイグループは、このように広く社会の共通課題となっている事柄に対しても、『CSR視点に基づく社会との協調』という方針のもと、ニチレイグループとしての責任を自覚し、テーマ性をもって主体的に取り組んでいます。

環境問題に対しては、食品関連事業はもとより、国内最大規模の食品物流事業を担う事業会社を有する企業グループとして、二酸化炭素排出量削減や最終処分廃棄物量ゼロ化などを掲げた「2010年度環境目標」の達成を確実なものとするため、環境保全活動を推進しています。また、社会貢献活動においても生活者の“食”をあずかる企業グループとして、「食に関する教育、健康と運動」という観点から、事業活動に根ざした「ニチレイらしい社会貢献活動」に継続的に取り組んでいます。

真に信頼される企業をめざして

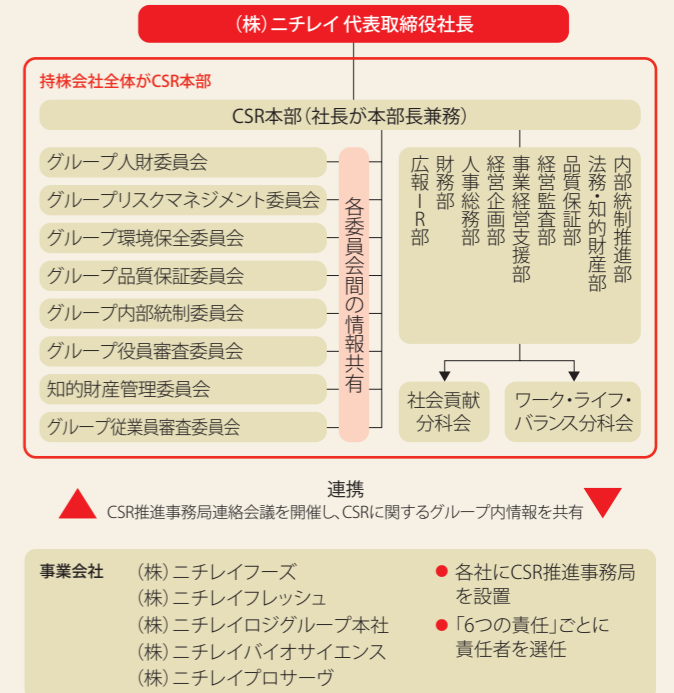
ニチレイグループでは、「顧客満足度＝従業員満足度」という考えのもとに、従業員の意識や考え方を知るための従業員満足度調査をスタートしました。

従業員の満足度と強い使命感をベースに、社会に貢献する企業風土の醸成に努めてこそ、初めて地に足のついたCSR活動が実現できる——なぜなら、これまで述べてきたさまざまなCSR活動を支えるのは、あくまでも一人ひとりの従業員であると考えからです。もし従業員が自分の会社や職場に不満を持っているようならば、お客様やステークホルダーの方々を満足させることなどできません。何よりも重要なのは、従業員一人ひとりの満足度を向上させながら、その意識の中に「CSRという視点」を確実に浸透させていくことです。

2008年4月から内部統制システムの運用が開始され、企業

の社会的責任がよりクローズアップされていますが、内部統制やコンプライアンス(法令等遵守)は、企業として当然取り組むべき課題であり、法律ができたから対応する性質のものではありません。「顧客満足度＝従業員満足度」という考えに基づき、真摯に活動をしているならば、社会的責任は自ずと果たされるはずで、このような信念のもと、今後とも地に足のついたCSR活動を推進していきます。ステークホルダーの皆様から広く好感と信頼を寄せられる企業として成長を続けてまいります。皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

CSR推進体制



CSR活動の歩み

